

道東沖合に高濃度のクロロフィル a

JAXAが公開している衛星データ（GCOM-C、JASMESプロダクト）を元に植物プランクトン量の目安となるクロロフィル a 濃度の分布を示しました。その結果、**釧路沿岸と十勝～えりも沖で赤潮と思われる高濃度のクロロフィル a が確認されました（赤破線）**。釧路～日高沿岸では、11/8～11のモニタリングにおいて、一部の地点で高密度の*Karenia selliformis*（カレニア・セリフォルミス）の出現が確認されたことから、この高クロロフィル a 領域も赤潮水塊の可能性がります。

国後島南西部にも高いクロロフィル a が観測されましたが、これが赤潮によるものかどうかは現場の情報が無いため不明です（緑破線）。ただし根室海峡のモニタリング定点では高密度のカレニア・セリフォルミスは確認されていません（11/16時点）。えりも以西では雲により観測が困難でした。

現在緊急対応として行っている赤潮モニタリングに加え、引き続き衛星画像や調査船調査により状況を把握し、随時情報提供する予定です。

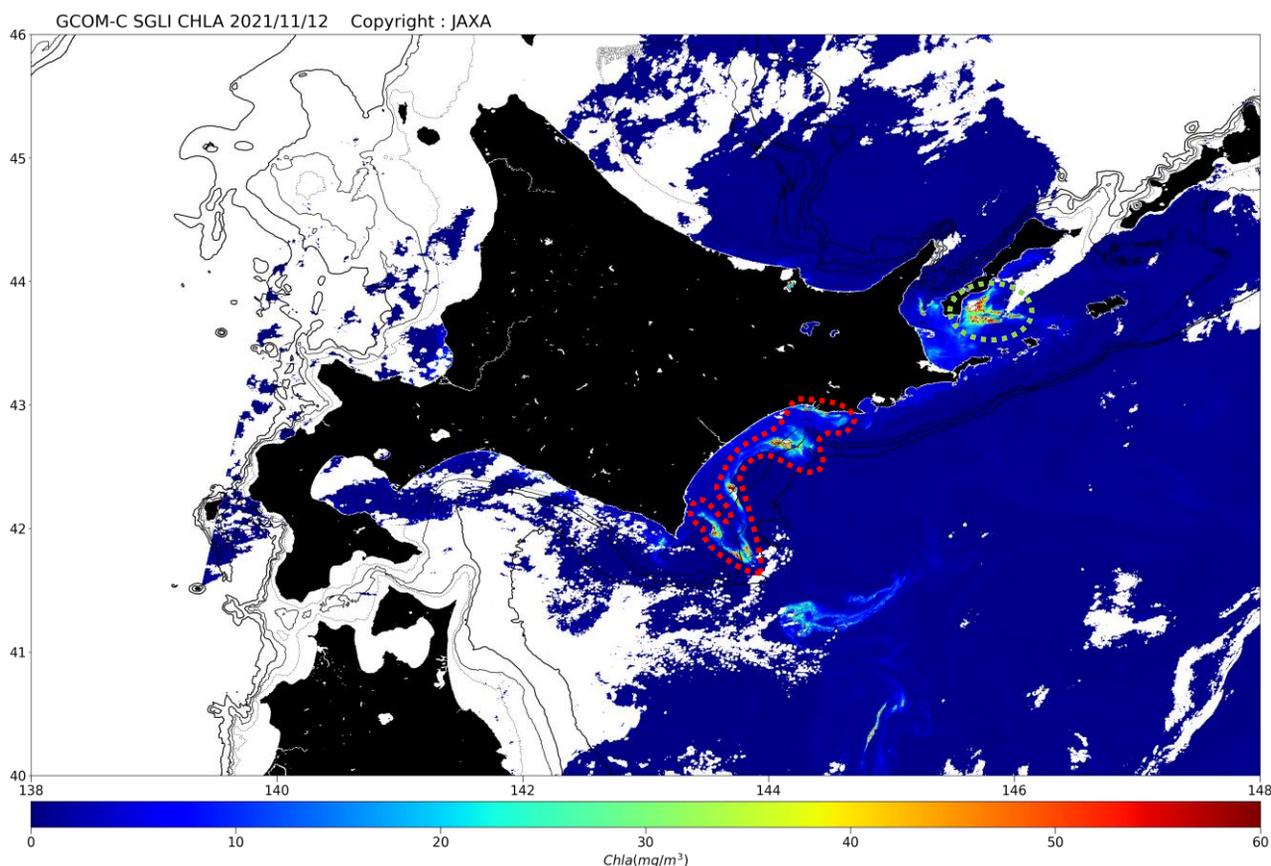
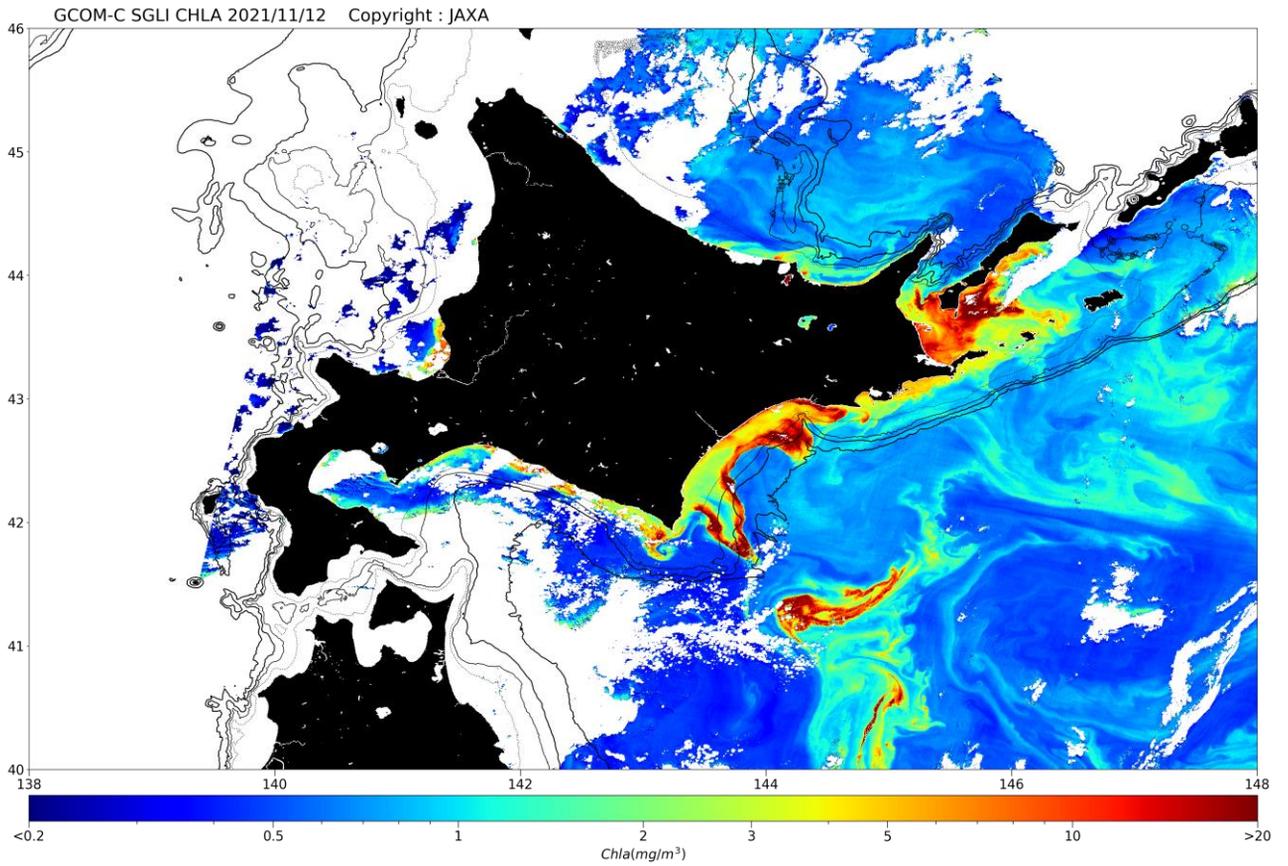


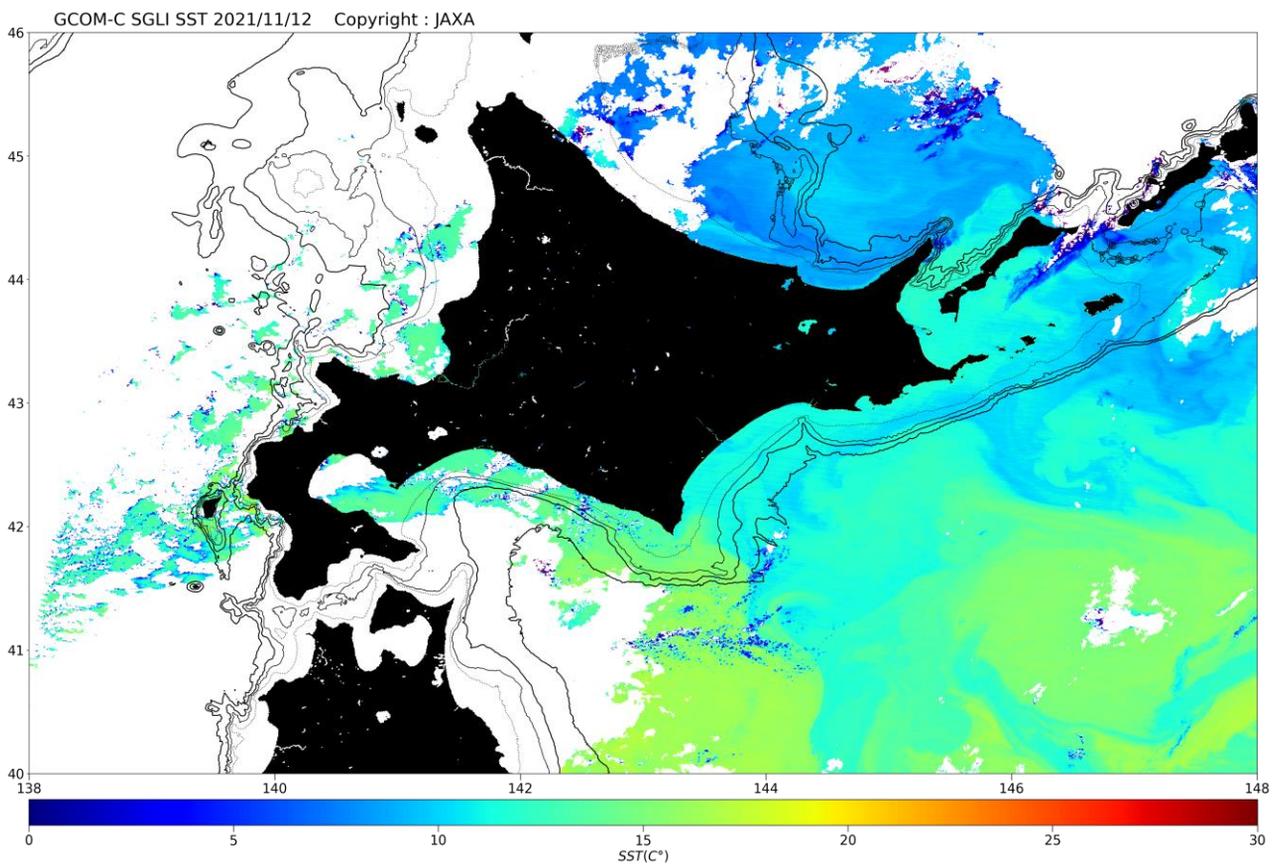
図1 2021年11月12日の表面クロロフィル a 濃度（0～60 mg/m^3 までの実数スケールで作図）
等深線は100 m、200 m、500 m、1000 m

※注意事項

- 人工衛星の観測画像より推定されたクロロフィル a 濃度は誤差を含むことがあり、表層のみのデータであるため、あくまでも参考値です。
- 高濃度のクロロフィル a 領域が全て赤潮とは限りません。珪藻類などの植物プランクトンが増殖している場合や、河川水由来の溶存有機物や懸濁物の影響で過大評価する可能性もあります。



参考図1 0.2~20 mg/m³までの対数スケールで作図したクロロフィルa濃度の衛星画像



参考図2 表面水温の衛星画像